



## 浜名湖環境活動団体交流会・ワークショップの報告

令和元年9月8日（日）浜名湖環境活動団体交流会・ワークショップが浜松市市民協働センターで開催されました。静岡県自然保護課より平成30年度県が策定した「ふじのくに生物多様性地域戦略」が紹介されました。

参加団体の中から以下の6団体から活動紹介（リレートーク）がありました。

- 紹介団体：①NPO法人むらちゃネット／②湖西フロンティア倶楽部／③日本野鳥の会 遠江／④浜松市環境政策課／⑤浜名湖ガーデンパーク／⑥ネイチャークリーン
- 会場には活動団体を紹介するパネル等の展示がされました。

- 参加者との意見交換会（グループワークショップ）  
テーマは、「浜名湖の環境保全における現状と課題」  
～今後の展開・活動（案）について語る～

### 【現状と課題】

- ゴミ（海洋プラスチック・上流部や周辺からのゴミ）
- 外来生物の増加（ヌートリア・ミシシippアカミミガメ・アメリカザリガニ・ツメタガイ等）
- 周辺開発による影響（ソーラーパネル・風力発電計画）
- 減少している資源がある（アマモ・アサリ・ウナギ等）
- 水質（塩分濃度の変化・貧酸素になることがある等）
- 浜名湖に親しむ機会が減少
- 浜名湖の多様な生物があまり認知されていない

### 【今後の展開・活動（案）について】

- ゴミを減らすための啓発活動
- 外来生物についての環境教育
- 浜名湖の生物多様性の情報を有する人材（団体）のリスト化
- 豊かな資源を知ってもらうために、「エコツーリズム」でPR
- 地域資源を活用して、浜名湖に流れ込む汚水の水質改善
- 水質に関するデータが必要。アマモ場の減少について調査が必要。

### 【今後取り組むべきテーマ（提案）】

- ・生物多様性の視点から「外来生物」や「プラスチックごみ」について周知する機会を設ける。
- ・浜名湖において、各分野の専門的な情報を有する団体の知恵や情報を借りて、より多くの県民に浜名湖の環境について知ってもらう機会（場）をつくるための体制を整える。



特定外来生物ヌートリア



プラスチックごみ

NPO法人ラブ・ネイチャーズは、2004年の浜名湖花博開催前に実施した静岡県主催のボランティアリーダー養成講座に参加した有志（5名）が立ち上がって2001年スタート。環境学習指導員や森林インストラクターなどさまざまな知識を持った約20名の会員が自然環境学習会を行っています。環境学習だけでなく、絶滅危惧種の保護や放置竹林の整備などにも取り組んでいます。

## ●環境学習会

環境学習会の実績は20年間取組んでいます。年間130回の観察会、延べ3,000人が参加しております。静岡県西部地域で観察会を開催しています。

また、子どもを対象にNPOの自主事業として遠州灘海浜公園で「自然学校」を年間12回開催しています。

これまで「ヒヌマイトトンボ」の自然観察会を行っていましたが、今はできなくなり、絶滅したと思われます。（ただしデータがありません）。



長年行っている自然観察会

## ●絶滅危惧種の保護

銅鐸公園において、絶滅危惧種である「シラタマホシグサ」の保護活動を20年間行っています。シラタマホシグサは、東海地方でのみ自生する固有種で、白くかわいい花で、一昔前までは田んぼの近くなど各所で見られました。ヒヌマイトトンボもいなくなったと感じています。また、ウラギクは、汽水域の貴重種であり、これらも自然の中で生き残るのは難しくなっていると感じています。



白い花をつけるシラタマホシグサ

## ●放置竹林の整備や樹木を知ってもらうための活動

浜松市の委託で富塚の小藪で放置竹林の整備を行っています。「ガキ大将秘密基地」として約700㎡のイベント広場を作ったり、竹を使った工作などを行い、竹と親しむ・楽しむイベントも開催しています。

学校への出前講座を行っており、磐田市～湖西市の80校の小中学校で校庭にある樹木を解説する「樹木銘板」を設置しています。長年の活動で得た情報をとりまとめて190ページにわたり校庭樹木を紹介する本を出版しています。この本も浜松市・湖西市・磐田市の小中学校全校、浜松市内の協働センターなどに贈呈しています。



放置竹林の整備



校庭樹木を紹介する本

## ●団体の抱えている課題

20年にわたる活動の実績・経験は豊富ですが、メンバーが高齢化しており、後継者の問題が一番の悩み。若いやる気のある人が参加してくれることを期待しているとのことでした。

## ●浜名湖周辺的环境に対して

絶滅危惧種が増えているが、外来種も増えています。台湾リスも多く、夏ミカンなどを食べてしまいます。また、イノシシやカモシカなども里まで来ており、外来生物や鳥獣害により生態系を変えてしまうと危惧しています。

【連絡先】NPO法人ラブ・ネイチャーズ (理事長 宮津さん)

E-mail: [love.natures@tokai.or.jp](mailto:love.natures@tokai.or.jp) ホームページ <http://love-natures.sakura.ne.jp>



庄内地区アマモ場研究会は、浜名漁協村櫛支所、白洲支所の漁師（有志）が集まり、近年減少が著しい浜名湖の「アマモ場」の調査・保全再生活動するために平成31年2月発足した団体です。

### ●浜名湖のアマモ場に変化

浜名湖は以前アマモが生い茂っていました。それが平成25年を境に激減、ここ2年でさらに減りました。アマモは「海のゆりかご」と呼ばれており、魚の産卵場所や隠れ家になります。それに水流が緩やかになるためプランクトンが沈殿し、アサリなどもアマモの根に守られながら成長します。また、アマモは光合成をするので海の二酸化炭素を吸収し、酸素を供給する役割も担います。私たちは、このように海や湖の生態系の土台となるアマモを復活できるか実証実験を中心に活動しています。



アマモ再生の実証実験活動

### ●浜名湖のアマモ調査、アマモ分布図を作成！

浜名湖のアマモの実態を示すデータがないため、アマモ場の状況を漁師が船で巡回して収集・調査して手づくりの「浜名湖のアマモ分布図」を作成しています。アマモがの面積は6～7年で減少傾向にあり、この2年で激減。アマモ場がなくなると漁業にも影響が出るだけでなく、生態系にも影響が生じる可能性があるかと危惧しています。

しかし、このようなデータ収集・調査をする費用なく、データ収集している機関もなく困っています。



浜名湖のアマモの状況を調査

### ●浜名湖のアマモ再生のために！

浜名湖のアマモ場を再生させるため、種から発芽させて苗を育てています。村櫛・雄踏・鷺津などで毎日天候や気温、水温を計測しながら成長を記録しています。三ヶ日中学校や三ヶ日青年の家など教育機関含めてアマモを考える団体としての活動に協力してもらっています。研究会のメンバーとしては、「より多くの人に関わってもらいたい」と言っていました。

アマモの再生のために、移植や様々な方法での種まき実験、モニタリングなどを行っています。



アマモの発芽・育成を観察

### ●浜名湖の環境が大きく変化！

浜名湖のアマモの激減は、近年の酷暑に起因するとも考えられています。浜名湖の水産物不漁の原因も、アマモの減少に加え、水温の上昇、塩分濃度の上昇、河川からの流入水量減少、養鰻池の衰退などが挙げられており、浜名湖のアマモ場は、多くの水生生物のすみかや産卵場所になる「海のゆりかご」でもある貴重な資源なので危惧しています。

### ●団体が抱えている課題

本年度は、浜松市の補助金をもらって活動していますが、補助金はいつまでも続かないことや、自己負担も必要であります。また、漁師が活動しているため、一般の市民や企業のからの理解・協力が得にくいと感じています（事業のために活動していると思われてしまいます）。活動を継続していくための人や資金が最大の課題であるとのことでした。



研究会のメンバーたち

OMソーラー(株)は、太陽エネルギーや自然エネルギーを住宅(生活)に取り入れるシステムを全国の工務店に販売している会社です。浜名湖畔の村櫛町に養鰻池1万坪を埋め立てて、2004年に社屋を完成、「地球のたまご」と呼び、敷地内をビオトープにして、浜名湖に排水を流さない環境にやさしい施設です。この社屋「地球のたまご」は市民の環境学習の場として活用もされています。



## ●「環境教育」の場を提供

地元村櫛小学校などの校外学習の場として利用されているほか、浜松市内の小中学校からの依頼で出前講座を実施、年間延べ500人~1,000人ほどの来場者があり、施設見学や環境体験の場を提供しています。また、浜松市の「はままつEスイッチ(浜松市環境教育推進ネットワーク)」にも参加して、環境教育の情報提供や環境保全活動などの連携に務めています。

このような活動が評価されて、令和元年度浜松市から「浜松市企業のCSR活動表彰」を受けることになったそうです。



環境学習の場として活用

## ●施設全体が自然との共生

地球のたまごでは、1万坪の敷地を都田川水系の植物を社員がポット栽培して、敷地に植えています。どんぐりも種から育てて、植樹しています。池にはメダカやフナなど都田川水系のいきものを放流しており、地域在来の動植物がすむ施設とするように努力しています。



社員によるどんぐりの植樹

## ●浜名湖の環境の変化 = 外来種が増えている！

浜名湖周辺では、外来種が増えているという印象を持っています。施設の敷地内にも外来生物が増えており、セイタカアワダチソウなどと格闘しています。しかし人(職員)の手で刈り取って苦労していますが、除草剤などは環境に配慮して使っていません。

## ●これからやっていきたいこと

環境学習の場を提供してきましたが、ワンランク上の楽しむプログラムをつくることに挑戦してみたいとのことです。敷地の手入れを50人の社員で行っているのですが、草刈などの管理をイベント形式にして、一般の人にお金を出して参加・体験してもらう仕組みをつくりたいと考えています。

この場所を一般の人や団体にもっと知ってもらいたいと考えているそうです。企業のPRだけでなく、もっと社会貢献にも力を注いでいきたいとのことです。はまなこ環境ネットワークでも何度か「地球のたまご」を会場に浜名湖を眺めながら、団体の交流会やワークショップ、勉強会などの場として利用させていただきました。この場所を拠点にもっといろいろなことができるものと期待しております。



社会貢献もしていきたい！

【連絡先】OMソーラー株式会社(村田さん) ☎ 053-488-1700

URL : <http://omsolar.jp> E-mail : [murata@omsolar.jp](mailto:murata@omsolar.jp)

## 「海洋プラスチックごみ問題」勉強会の開催報告

日時：令和元年11月17日(日) 9:00~12:00  
 場所：庄内協働センター、館山寺サンビーチ  
 参加者：48名(一般募集)  
 主催：浜名湖の水をきれいにする会  
 協力：はまなこ環境ネットワーク



拾ったごみの81%がプラスチックゴミ

